

特別活動 学級活動（１）指導案

指導者 尾道特別支援学校

教諭 中野 紘之（Ｔ１）

教諭 黒瀬 安規（Ｔ２）

１ 日 時 令和 ２年 １２月 １２日（土） 第２校時（ ９：３０ ～ １０：２０ ）

２ 学 級 知的障害部門 中学部 第３学年１組（計４名）

３ 場 所 本館３階 知的障害部門 中学部 第３学年１組 教室

４ 題材名 みんなが楽しめる会をしよう

５ 題材設定の理由

（１）生徒観

本学級は男子３名、女子１名の計４名が在籍している知的障害単一障害学級である。言語によるコミュニケーションでは、休憩時間には昨日の出来事や自分の気持ちを相手に伝えようとする場面が見られる。一方、他者の意見や思いへの関心は薄く、自分が話し終わると他者の発言を聞いていないことが多い。

話し合い活動において、Ａは自分の意見をもっているがうまく説明ができないため、「なんとなく。」「どっちでも良い。」という言葉を使うことが多いが、決まった話型があると自分の意見を発表することができる。Ｂは一方的に自分の意見を話し、友達の提案に耳を貸さないことがある。意見を視覚的に整理すると、友達の意見を理解したり、自分の意見を変えたりすることができる。ＣはＡと同様に自分の考えはあるが、「そっちで良いや。」と友達の意見に同調したり、他の生徒の発言を真似したりして答えることが多い。友達の意見を聞く時には、「それナイスアイデア。」等、友達の意見に対し、称賛することができる。Ｄは自分の考えや意見に自信がなく、自分から意見を述べたり、友達に意見を説明したりすることは少ない。また、質問が理解できない時や聞いていなかった時には、友達の発表に同調したり適当に答えたりすることがある。Ａと同様に話型が決まっていたり、自分の興味・関心が高かったりすると多くの理由を付け加えて話すことができる。

これまでの特別活動では、「朝の会で歌う歌を決めよう」「前期・後期の学級の役割を決めよう」等の議題で話し合い活動を行った。その中で、事前に自分の考えを持って話し合いに参加したり、理由を付けて自分の意見を述べたりすることができるようになってきた。一方、意見を出し合うばかりで、意見を比較・整理したり、友達の意見を受けて自分の考えを述べたりするような話し合い活動にはなっておらず、意見を一つにまとめる時には、多数決やじゃんけん、くじ引きで物事を決めることも多くある。ただ少しずつ、教師の提案を受けて、朝の歌は１週間ずつで曲を変えたり、学級の仕事を自分たちで組み替えたりし、意見を一つにまとめることができるようになってきている。

（２）題材観

特別支援学校学習指導要領（小学部・中学部）第６章特別活動には、「小学部又は中学部の特別活動の目標、各活動・学校行事の目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取扱いについては、小学校学習指導要領第６章又は中学校学習指導要領第５章に示すものに準ずる。」と明記してある。本題材は、中学校学習指導要領特別活動〔学級活動〕の内容（１）学級や学校における生活づくりへの参画を中心に扱う。卒業までの残り３か月、後輩と有意義な時間を過ごす活動の企画を一部の生徒からの提案を受け、学級内での話し合い活動を展開していくことを通して、学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図る活動を取り入れる。これは、協働して実践することができ、また、生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養うことができると考え、本題材を設定した。

（３）指導観（主体的・対話的で深い学びの姿）

本時の指導に当たっては、話し合いの進め方を自分たちで話し合っ決めてできるように、話し合いの進め方のモデルや話し合いの観点を提示する。最後に、みんなで決めた内容で活動を実施させ、振り返りの場を設定する。前時まで各ペアで活動の一つにまとめさせ、本時では、各ペアでまとめた意見を項目で整理し、比較する。

項目については、「コロナウィルス対策は万全か。」「雨天時でも活動が可能か。」「全員が楽しめる工夫があるか。」という話し合いの観点を提示することにより、それぞれの活動の良さを比べながら話し合うことができるようにする。異なる意見やお互いの発言に対する姿勢を認め合い、実践への意欲が高めることができるようにする。

話し合いでは、「みんなが楽しめる活動」を念頭に計画を促す。自分の考えを相手に伝える手立てとして、全体で意見を出し合う前に、まずはペアでお互いに自分の意見を説明させる活動を仕組む。具体的に意見の説明ができた時には即時評価を行い、説明が不十分な生徒には補足を促し、説明ができた時には肯定的な評価を行う。

また、対話的・主体的な活動を促すためにペア活動を行う。ペアリングについては、日常の生活から外での活動が好きなペアと室内での活動が好きなペアに設定する。また、ペアで話し合う時間を多く確保するため、発表時の話型の提示や役割分担は予め教師が設定し、主発問に迫る時間を多く確保する。全員の合意を得るための工夫や折り合いをどのように付けていくか、自分の言葉で説明させ、全体で共有させる。

板書については授業内容と本時の目標を明記し、適宜、目標を意識できるようにする。プロジェクタを用いることで、スムーズに前時の復習や場面転換ができるため、生徒の考える時間を多く確保することを狙いとする。

6 学級活動（１）「学級や学校の生活づくり」の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方について理解している。

7 指導計画（全４時間 本時 ３／４時間）

次	時間	学習活動	評価			
			関 ・ 意 ・ 態	思 ・ 判 ・ 実	知 ・ 理	評価規準
1	1	合意形成の方法を知り、場面に応じた方法を選び、意見をまとめる。			○	様々な合意形成の方法を知り、意見を出し合う、比べ合う、決めるという一連の流れを理解している。
2	2 (本時 2/2)	個人やペアで意見を述べたり、聞いたりして、合意形成の方法を活用して意見をまとめる。		○		多くの意見を生かし合いながら、合意形成を図っている。
3	1	ゲームのルールや役割決め等、会の活動計画を立て、準備をする。	○			会の実施に向けて準備を進んでいき、自分の役割や目的を考えて、活動に取り組もうとしている。

8 本時の目標

(1) 全体の目標

○友達の意見と自分の意見を比べながら、合意形成を図ることができる。

(2) 個別の目標（別紙参照）

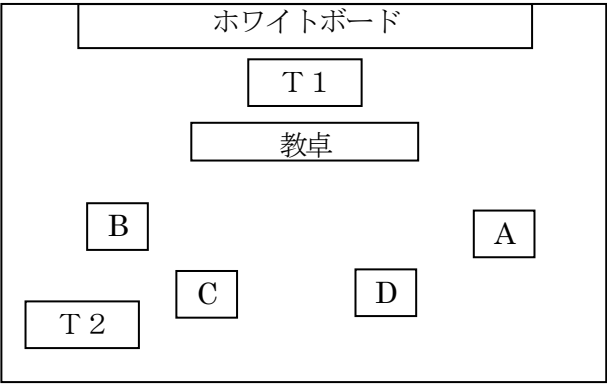
9 準備物

ホワイトボード（小）、ノートPC、プロジェクタ、ワークシート

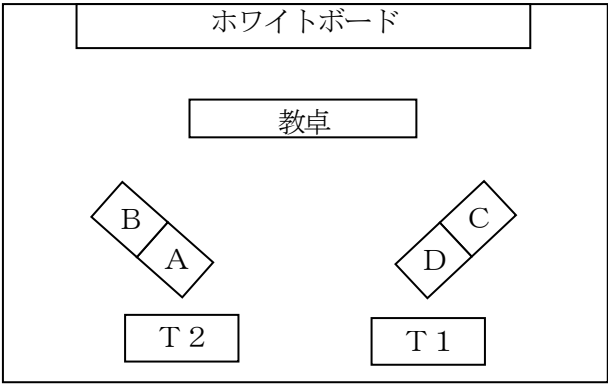
10 学習過程（別紙参照）

11 教室内配置図

(活動1)



(活動2)



8 本時の目標

(2) 個別の目標

生徒	これまでの様子	手立て		個別目標	評価基準
A	【学習の程度】 ・他者の意見を取り入れたり、工夫点を表にまとめたりすることができる。 ・決まった話型があると自分の意見を発表することができる。 【活動の様子】 ・話合いの際、自分から発言は少ないが、活動内容はよく理解している。	視		・他者の意見の良い点や工夫点を自分の言葉で整理しながら合意形成を図ることができる。	A：二つの意見を組み合わせ、より良い活動に向けて、合意形成を図ることができる。 B：他者の意見の良い点や工夫点を自分の言葉で整理しながら合意形成を図ることができる。 C：他者の意見を自分の意見と比較しながら、合意形成を図ることができる。
		言	○		
		モ			
		身			
		ICT	○		
B	【学習の程度】 ・視覚優位であり、指示を読んで活動することができる。 ・自分の意見を曲げないことがあるが、促すと変更できる。 【活動の様子】 ・積極的に挙手をし、発表することができる。 ・不安になると何度も確認したり、周りを見渡したりする。	視		・自分たちの意見に、他者の意見の良い点を取り入れて合意形成を図ることができる。	A：どちらの意見においても、自分の言葉で理由を明確にしながら合意形成を図ることができる。 B：自分たちの意見に、他者の意見の良い点を取り入れて合意形成を図ることができる。 C：他者の意見の良い点を踏まえ、合意形成を図ることができる。
		言			
		モ	○		
		身			
		ICT	○		
C	【学習の程度】 ・友達の意見に同調したり、考えずに発言したりすることがある。 ・どちらがより良い活動なのか、考えて正しく選択することができる。 【活動の様子】 ・体調によって、集中力に差がある。 ・ペア活動では、積極的に発言するが整理することは難しい。	視	○	・他者の意見の良い点や工夫点を踏まえ、合意形成を図ることができる。	A：二つの意見を比較し、どちらがなぜ良いのかを理由を明確にしながら合意形成を図ることができる。 B：他者の意見の良い点や工夫点を踏まえ、合意形成を図ることができる。 C：他者の意見を聞き、自分の言葉で合意形成を図ることができる。
		言			
		モ			
		身			
		ICT	○		
D	【学習の程度】 ・質問が理解できない時や聞いていなかった時には、友達の発表に同調したり適当に答えたりすることがある。 ・仲の良い友達とは冗談を言ったり、積極的に話しかけたりすることがある。 【活動の様子】 ・話合いの際、自分から発言することは少ない。 ・話型があると、流れに沿って話をするすることができる。	視		・他者の意見を理解し、自分の意見をペアに伝え合意形成を図ることができる。	A：他者の意見を理解し、自分の意見を理由とともにペアに伝え合意形成を図ることができる。 B：他者の意見を理解し、自分の意見をペアに伝え合意形成を図ることができる。 C：自分の意見をペアに伝えることができる。
		言			
		モ	○		
		身			
		ICT	○		

※視：視覚支援、言：言葉掛け、モ：モデリング・指さし・ジェスチャー、身：身体的補助、ICT：ICT機器の活用

10 学習過程

学習活動	指導上の留意事項（ 課題 ， ○支援・手立て等 ， ☆評価 ）				
	A	B	C	D	全体における留意点
1 あいさつをする。（1分）	○言葉掛けをし、良い姿勢を保つようにする。		○注目していない時には、言葉掛けをする。		○語先後礼を意識し、全員で動きを合わせる。
2 本時の目標と学習内容を知る。（1分）					
3 前時の復習をする。（5分） ・みんなが納得する決め方や合意形成を図るための方法を確認する。 ・決まっていることを聞く。 ・各ペアの活動計画を確認する。	○前時で決めた活動内容を自分の言葉で説明させる。 ○発表時は、相手に聞こえる声の大きさと発表させる。	○回答が分かったときには、挙手をするように促す。	○既習プリントを見たり教室内のヒントを探したりするように言葉掛けをする。	○これから活動を自分の言葉で発表し、確認させる。 ○発表者に身体を向け、注目して聞くように促す。	○前時のスライドを空欄にし、学習したことを振り返りやすくする。
4 話し合いをする。（20分） ・項目に沿って、評価する。（個人） ・どんな工夫ができるか。 ・どんな役割や係が必要か。	○良い意見や工夫点を付箋に記入させ、記入したものを移動できるようにする。	○ワークシートに沿って、具体的に記入するように促す。	○キーワードのみ記入させ、書く時間を短縮する。	○議題から外れないように適宜、観点を意識して話し合いを進めるように助言する。	○まずはワークシートに記入させ、その後、ペアで共有させる。 ○話し合いが滞った場合は、一時中断し、全員で話し合う内容を共有する。
5 発表する。（15分） ・話型に沿って、発表する。 ・各ペアの意見を比較する。 ・活動内容を決める。 ・みんなが楽しめる工夫を考える。 ・ルールや役割を考える。	他者の意見の良い点や工夫点を自分の言葉で整理しながら合意形成を図ることができる。 ○過去の合意形成の方法を参考にするように促す。 ☆他者の意見の良い点や工夫点を自分の言葉で整理しながら合意形成を図ることができたか。	自分たちの意見に、他者の意見の良い点を取り入れて合意形成を図ることができる。 ○質問に対して、具体的に説明するように促す。 ☆自分たちの意見に、他者の意見の良い点を取り入れて合意形成を図ることができたか。	他者の意見の良い点や工夫点を踏まえ、合意形成を図ることができる。 ○過去の合意形成の方法を参考にするように促す。 ☆他者の意見の良い点や工夫点を踏まえ、合意形成を図ることができたか。	他者の意見を理解し、自分の意見をペアに伝え合意形成を図ることができる。 ○「理由は～だからです。」等の話型を視覚的に示す。 ☆他者の意見を理解し、自分の意見をペアに伝え合意形成を図ることができたか。	○各項目はプロジェクトを用いてホワイトボードに投影し、考える内容を焦点化する。
6 振り返りをする。（7分） ・決まったことを確認する。 ・評価を聞く。	○本時で話し合った内容や話し合いの進捗状況を自分の言葉で説明させる。	○理由や友達を意識した発言や活発に発言していた様子を称賛する。	○取り組んでいた姿を具体的に評価し、自己肯定感が高まるようにする。	○本時で話し合った内容が今後につながっていく見通しをもたせ、活動への意欲を維持させる。	○目標の達成度や課題に取り組む姿勢を具体的に評価し、自己肯定感が高まるようにする。
7 あいさつをする。（1分）	○言葉掛けをし、良い姿勢を保つようにする。		○注目していない時には、言葉掛けをする。		○語先後礼を意識し、全員で動きを合わせる。